

議会運営委員会行政視察報告

議会運営委員会では、去る11月18日に行政視察として一関市議会を訪問した。視察項目は、議会運営と一関市議会基本条例についての2項目である。

一関市は面積約1,133平方km、人口約12万3千人であり、平成17年9月20日に、一関市、花泉町、大東町、千厩町、東山町、室根村、川崎村の1市4町2村が新設合併した市である。

議会運営については、現在の議員定数は法定数は34人であるが合併特例法により41人で、平成21年10月8日までの任期であった。定数削減について平成20年9月議会で否決された。予算、決算は議長・監査委員（決算のみ）を除く特別委員会（4日間）に付託し、補足説明、総括質疑ののち、常任委員会単位の分科会を設置し所管に係る予算、決算を分割付託している。分科会では採択せずに特別委員会で採択するので、全分科会の議事録を特別委員会に報告しなければならない、しかも数日間ぐらゐの間に作成しなければならない。

議員数も多いので分科会審議も仕方ないかもしれないが、議事録の作成はたいへんな労苦だろうと感じた。

一関市議会基本条例については、1市4町2村の7市町村が合併し新市が発足したことから、議会の活性化に向けた取り組みとして平成19年1月に議会基本条例の制定検討を事務局から正副議長、正副委員長に要請して協議検討し、平成19年6月議員発議で可決された。事務局主導で短期間に制定したため議員個々の関心、意識がないため条例が生かされていないと感じた。議会の活性化よりも合併後の議会の平準化を事務局が求めたのではと思われた。



▲一関市役所での研修風景

教育民生行政視察報告

11月10日、秋田県大仙市立西仙北西中学校・大仙市立双葉小学校を視察した。秋田県では少人数学級を10数年前から実施しており、全国でも上位の成績を上げている。本市の中学校再編計画では、適正規模の学校として、1学年2学級以上を目指すとしており、少人数学級の学校を再編する案である。生徒一人ひとりに行き届いた指導がどのようになされているかを研修した。

どちらの学校も、小規模校だったが子供たちは明るく元気に学んでいた。特に西中は教員定数9名に対し、12名の教員が配置されていた。3年生40名が、20名ずつの能力別二つの学習集団に分かれ、授業を受けている姿を見学してきた。少人数であるから教師は一人一人が納得するまで丁寧に接していた。

美術科の免許教員はいないが、数学・英語を中心に複数の職員による指導が可能と話していた。学力向上対策として1年生18名、2年生31名は、数学・英語を中心に複数教員を配置している。3年生40名は、全教科を二つの学習集団（能力別）に分けて授業している。生徒の希望を尊重し、入れ替えもあるそうである。

学習のつまずきの原因をお互いに考え、発見している姿に感銘を受けた。生徒一人ひとりにきめ細やかな指導をしている姿に、秋田ならではの再確認することのできた視察研修であった。

議員談話室

議員として振り返って思うに、最初の議題はふるさと村

の審議で、これは三日にも及ぶ議題であった。議員の役目も大変な役目だとその時痛感させられた。ふるさと村に行くたびに思い出されるのは、ホテルの課題であった。市を二分しての運動の末にホテルが建設され、今日に至っている。ホテル効果もあっただろうが、反面同業者が経営に苦しみ、店を畳まなければならない業者があるのだ。現実として、当時の予算委員会での審議の中での答弁で、公金で作ったホテルと同業者が競うのが当然との当局の姿勢に、未だに納得がいかず、今でも心の隅に残っている。以後に出される大きな課題は、中学校の再編計画であろう。市当局が、いかにこの重要な課題に取り組むか。私もこの課題に心して取り組みたいと思う。

(伊藤 庄吉 議員)